

ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)

運用報告書（全体版）

第9期（決算日 2026年7月8日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「ゴールド・ファンド（為替ヘッジあり）」は、2026年7月8日に第9期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／その他資産（商品）		
信 託 期 間	2017年7月31日から原則無期限です。		
運 用 方 針	主として、「ゴールド・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要運用対象	ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	「ゴールド・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。	
	ゴ ー ル ド ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券を主要投資対象とします。	
組 入 制 限	ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	株式への実質投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。	
	ゴ ー ル ド ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	株式への投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。	
分 配 方 針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。		

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.amova-am.com

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

<643705>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			金 地 金 (円ヘッジベース) (参考指数)	金 地 金 (円ヘッジベース) (騰 落 中 率)	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落 中 率				
	円		円	%		%	%	百万円
5 期(2022年 7 月 8 日)	12,038		0	△ 4.8	128.46	△ 4.2	99.4	8,950
6 期(2023年 7 月 10 日)	12,485		0	3.7	135.32	5.3	100.2	10,776
7 期(2024年 7 月 8 日)	14,499		0	16.1	158.44	17.1	101.4	12,527
8 期(2025年 7 月 8 日)	19,046		0	31.4	211.44	33.5	99.6	23,255
9 期(2026年 7 月 8 日)	22,376		0	17.5	251.90	19.1	99.7	33,571

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「金地金価格 (円ヘッジベース)」とは、前日のニューヨークの金地金価格を対円でヘッジし、円／アメリカドルレート (対顧客電信売買相場の仲値) で円換算したものです。なお、設定時を100として2026年 7 月 8 日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		金 地 金 (円ヘッジベース) (参考指数)	金 地 金 (円ヘッジベース) (騰 落 率)	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率			
(期 首) 2025年 7 月 8 日	円		%		%	%
	19,046		—	211.44	—	99.6
7 月末	18,604	△ 2.3		206.78	△ 2.2	101.1
8 月末	19,399	1.9		215.53	1.9	98.8
9 月末	21,620	13.5		240.36	13.7	99.4
10 月末	22,649	18.9		251.90	19.1	100.2
11 月末	23,384	22.8		259.47	22.7	99.8
12 月末	24,259	27.4		269.99	27.7	99.9
2026年 1 月末	30,022	57.6		329.05	55.6	96.5
2 月末	28,843	51.4		321.33	52.0	100.5
3 月末	24,834	30.4		278.78	31.8	99.2
4 月末	24,923	30.9		279.96	32.4	100.0
5 月末	24,566	29.0		276.30	30.7	99.2
6 月末	21,855	14.7		246.04	16.4	99.6
(期 末) 2026年 7 月 8 日	22,376	17.5		251.90	19.1	99.7

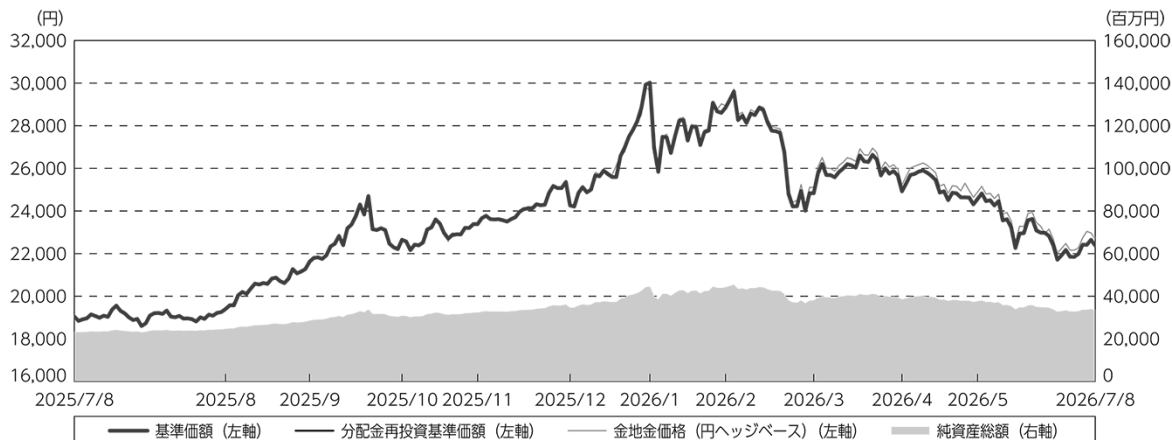
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2025年7月9日～2026年7月8日）

期中の基準価額等の推移



期 首：19,046円

期 末：22,376円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 17.5%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）分配金再投資基準価額および金地金価格（円ヘッジベース）は、期首（2025年7月8日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）金地金価格（円ヘッジベース）は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっております。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・ 米国政権の関税強化や通商政策の不透明感が企業収益や世界景気の先行きへの警戒を強めたこと。
- ・ 米国連邦準備制度理事会（FRB）の独立性への懸念や米国の財政赤字拡大を背景にアメリカドルの信認低下が意識されたこと。
- ・ 新興国などの中央銀行による金購入の継続。
- ・ 円安／アメリカドル高となったこと。

<値下がり要因>

- ・米国のシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）グループにより金などの先物取引の証拠金が引き上げられ売りを誘ったこと。
- ・米国長期金利の上昇によって金利の付かない金の投資妙味が薄れたこと。

投資環境

（金市況）

期間中の金地金市場では、アメリカドルベースの金価格は期間の初めと比べて上昇しました。

期間の初めから2026年1月下旬にかけては、米国政権の関税強化や通商政策の不透明感が企業収益や世界景気の先行きへの警戒を強めたこと、ロシアによるウクライナ侵攻の情勢に加え、グリーンランドを巡る米国と欧州諸国の対立など地政学的リスクが意識され安全資産としての需要が高まったこと、FRBの独立性への懸念や米国の財政赤字拡大を背景にアメリカドルの信認低下が意識されたこと、新興国などの中央銀行による金購入の継続などが支援材料となり、金価格は上昇しました。2月上旬から期間末にかけては、米国のCMEグループにより金などの先物取引の証拠金が引き上げられ売りを誘ったこと、米国連邦公開市場委員会（FOMC）の声明文が利上げに積極的な内容だったと受け止められ、FRBによる年内利上げ観測が高まったこと、米国長期金利の上昇によって金利の付かない金の投資妙味が薄れたこと、米国とイランの停戦合意や和平協議の進展を受けて安全資産としての需要が後退したことなどが重しとなり、金価格は下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、「ゴールド・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないました。

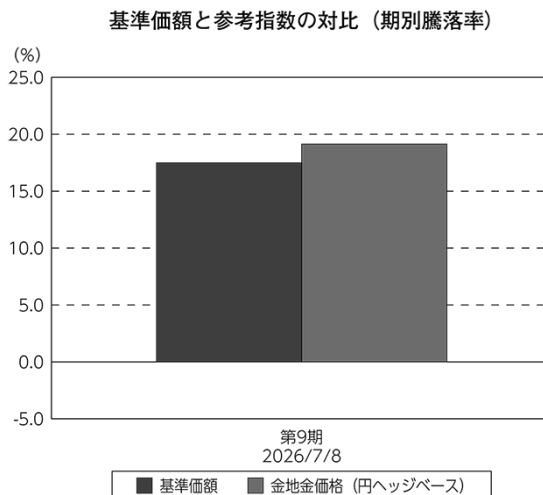
（ゴールド・マザーファンド）

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないました。原則として、随時ポートフォリオの見直しを行ない、投資信託証券の組入比率を高位に維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 金地金価格（円ヘッジベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 9 期
	2025年 7 月 9 日～ 2026年 7 月 8 日
当期分配金 (対基準価額比率)	— — %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	12,376

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「ゴールド・マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として為替ヘッジを行ないます。

（ゴールド・マザーファンド）

引き続き、原則として、ベンチマークである「金地金価格（円ベース）」に連動する投資成果をめざして、金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券に投資を行ない、組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2025年 7 月 9 日～2026年 7 月 8 日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	97	0.407	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 44 ）	（ 0.187 ）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 44 ）	（ 0.187 ）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 8 ）	（ 0.033 ）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.002	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	（ 0 ）	（ 0.002 ）	
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	（ 0 ）	（ 0.001 ）	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 投 資 信 託 証 券 ）	（ 0 ）	（ 0.000 ）	
(d) そ の 他 費 用	6	0.026	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	（ 3 ）	（ 0.011 ）	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	（ 1 ）	（ 0.004 ）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	（ 3 ）	（ 0.011 ）	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	104	0.435	
期中の平均基準価額は、23,746円です。			

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

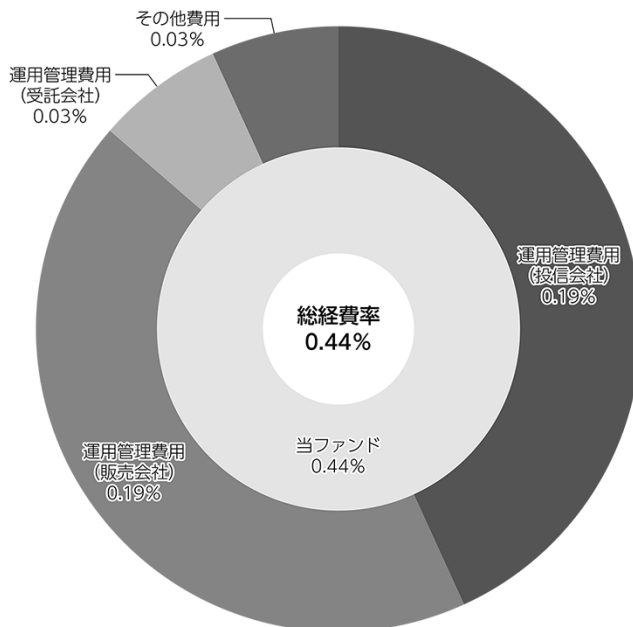
（注）売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

（注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.44%です。



（注）当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注）「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認ください。ただし、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

（注）各比率は、年率換算した値です。

（注）当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年7月9日～2026年7月8日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ゴールド・マザーファンド	2,388,235	9,938,394	1,985,677	8,287,310

○利害関係人との取引状況等

(2025年7月9日～2026年7月8日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2025年7月9日～2026年7月8日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2025年7月9日～2026年7月8日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2026年7月8日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ゴールド・マザーファンド	7,625,418	8,027,975	33,597,078

(注) 親投資信託の2026年7月8日現在の受益権総口数は、94,310,455千口です。

○投資信託財産の構成

(2026年 7 月 8 日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ゴールド・マザーファンド	33,597,078	99.1
コール・ローン等、その他	295,090	0.9
投資信託財産総額	33,892,168	100.0

- (注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。
- (注) ゴールド・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（396,527,187千円）の投資信託財産総額（397,321,812千円）に対する比率は99.8%です。
- (注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=162.37円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2026年7月8日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	67,301,382,677
コール・ローン等	289,744,342
ゴールド・マザーファンド(評価額)	33,597,078,919
未収入金	33,414,551,549
未収利息	7,867
(B) 負債	33,729,650,437
未払金	33,605,177,262
未払解約金	40,733,577
未払信託報酬	79,064,810
その他未払費用	4,674,788
(C) 純資産総額(A－B)	33,571,732,240
元本	15,003,381,300
次期繰越損益金	18,568,350,940
(D) 受益権総口数	15,003,381,300口
1万口当たり基準価額(C／D)	22,376円

(注) 当ファンドの期首元本額は12,210,394,515円、期中追加設定元本額は8,631,199,982円、期中一部解約元本額は5,838,213,197円です。

(注) 1口当たり純資産額は2,2376円です。

○損益の状況（2025年7月9日～2026年7月8日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,007,936
受取利息	2,007,936
(B) 有価証券売買損益	1,758,373,699
売買益	10,157,080,753
売買損	△ 8,398,707,054
(C) 信託報酬等	△ 143,951,233
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	1,616,430,402
(E) 前期繰越損益金	2,972,352,606
(F) 追加信託差損益金	13,979,567,932
(配当等相当額)	(7,075,578,801)
(売買損益相当額)	(6,903,989,131)
(G) 計(D＋E＋F)	18,568,350,940
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G＋H)	18,568,350,940
追加信託差損益金	13,979,567,932
(配当等相当額)	(7,075,810,642)
(売買損益相当額)	(6,903,757,290)
分配準備積立金	4,588,783,008

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程（2025年7月9日～2026年7月8日）は以下の通りです。

項 目	2025年7月9日～ 2026年7月8日
a. 配当等収益(経費控除後)	9,283,848円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	1,607,146,554円
c. 信託約款に定める収益調整金	13,979,567,932円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	2,972,352,606円
e. 分配対象収益(a＋b＋c＋d)	18,568,350,940円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	12,376円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万円当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2025年7月9日から2026年7月8日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
 - ①委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。（第1条、第16条）
 - ②当社の社名変更に伴ない、電子公告を掲載する当社ホームページのURLを「www.nikkoam.com/」から「www.amova-am.com」に変更いたしました。（第59条）
- 当ファンドについて、「一般社団法人投資信託協会」の合併に伴ない、その記載を「一般社団法人資産運用業協会」に変更すべく、2026年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表、第8条、第29条）

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

ゴールド・マザーファンド

運用報告書

第13期（決算日 2026年3月9日）
（2025年3月11日～2026年3月9日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2013年3月25日から原則無期限です。
運用方針	主に金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

ファンド概要

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。なお、ファンドの状況や投資環境に応じて、金地金価格への連動をめざすために、金先物価格への連動をめざす上場投資信託証券や上場投資信託証券以外の有価証券に投資を行なう場合があります。

投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的のため、金先物取引等の商品投資等取引を活用します。このため、上場投資信託証券の組入総額と金先物取引などの買建玉の時価総額の合計額および外貨建資産の組入総額と外国為替予約取引などの買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

<637068>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		金地金価格 (円ベース)		投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落 率	中 率	(ベンチマーク)	期 騰 落 率		
	円	%		%	%	百万円
9 期 (2022年 3 月 8 日)	14,579	25.0	151.21	25.2	99.9	158,719
10期 (2023年 3 月 8 日)	15,705	7.7	163.45	8.1	102.9	174,259
11期 (2024年 3 月 8 日)	20,082	27.9	209.46	28.2	100.0	196,770
12期 (2025年 3 月 10 日)	26,899	33.9	280.82	34.1	99.6	235,199
13期 (2026年 3 月 9 日)	51,233	90.5	537.07	91.3	99.3	472,900

(注)「金地金価格 (円ベース)」とは、前日のニューヨークの金地金価格を円／アメリカドルレート (対顧客電信売買相場の仲値) で円換算したものです。なお、設定時を100として2026年 3 月 9 日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		金地金価格 (円ベース)		投 資 信 託 証 組 入 比 率
	騰 落 率	率	(ベンチマーク)	騰 落 率	
(期 首)	円	%		%	%
2025年 3 月 10 日	26,899	—	280.82	—	99.6
3 月末	28,888	7.4	302.20	7.6	99.2
4 月末	29,692	10.4	310.53	10.6	99.4
5 月末	29,916	11.2	312.94	11.4	99.6
6 月末	29,695	10.4	310.73	10.7	99.6
7 月末	30,617	13.8	320.62	14.2	99.6
8 月末	31,513	17.2	329.73	17.4	99.6
9 月末	35,734	32.8	373.84	33.1	99.3
10月末	38,853	44.4	406.83	44.9	99.6
11月末	40,887	52.0	427.13	52.1	99.5
12月末	42,528	58.1	445.55	58.7	99.5
2026年 1 月末	51,938	93.1	534.38	90.3	99.5
2 月末	50,721	88.6	530.39	88.9	99.5
(期 末)					
2026年 3 月 9 日	51,233	90.5	537.07	91.3	99.3

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2025年3月11日～2026年3月9日)

基準価額の推移

期間の初め26,899円の基準価額は、期間末に51,233円となり、騰落率は+90.5%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・中東情勢やロシアによるウクライナ侵攻を巡る不確実性に加え、イラン情勢の緊迫化など地政学的リスクが繰り返し意識され、安全資産としての需要が高まったこと。
- ・米国政権による関税強化や通商政策の不透明感が企業収益や世界景気、インフレの先行きへの警戒を強めたこと。
- ・米国連邦準備制度理事会（FRB）による利下げの実施や追加利下げ観測の高まりから、アメリカドル安や米国長期金利の低下が進む局面があったこと。
- ・米国国債の格下げやFRBの独立性への懸念、米国の財政赤字を背景にアメリカドルの信認低下が意識され、アメリカドル離れの受け皿として実物資産である金に資金が向かったこと。
- ・円安／アメリカドル高となったこと。

<値下がり要因>

- ・世界的な株価の上昇基調を背景に投資家のリスク選好姿勢が強まったこと。
- ・米国の雇用など一部の経済指標の底堅さを受けてFRBの利下げ観測が後退する局面があったこと。
- ・米国のシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）グループなどにより、金などの先物取引の証拠金が引き上げられ売りを誘ったこと。

(金市況)

期間中の金地金市場では、アメリカドルベースの金価格は期間の初めと比べて上昇しました。

世界的な株価の上昇基調を背景に投資家のリスク選好姿勢が強まったことや、米国の雇用など一部の経済指標の底堅さを受けてFRBの利下げ観測が後退する局面があったこと、米国のCMEグループなどにより、金などの先物取引の証拠金が引き上げられ売りを誘ったことなどが金価格の重しとなったものの、中東情勢やロシアによるウクライナ侵攻を巡る不確実性に加え、イラン情勢の緊迫化など地政学的リスクが繰り返し意識され、安全資産としての需要が高まったこと、米国政権による関税強化や通商政策の不透明感が企業収益や世界景気、インフレの先行きへの警戒を強めたこと、FRBによる利下げの実施や追加利下げ観測の高まりから、アメリカドル安や米国長期金利の低下が進む局面があったこと、米国国債の格下げやFRBの独立性へ

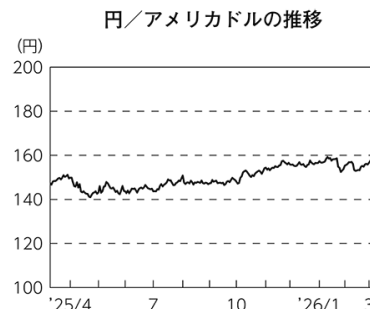
基準価額の推移



の懸念、米国の財政赤字を背景にアメリカドルの信認低下が意識され、アメリカドル離れの受け皿として実物資産である金に資金が向かったこと、新興国などの中央銀行による金購入の継続や中国における宝飾・投資需要の強さなども支援材料となり、金価格は上昇しました。

(為替市況)

期間中におけるアメリカドル(対円)は、右記の推移となりました。



ポートフォリオ

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないました。原則として、随時ポートフォリオの見直しを行ない、また、金先物取引を利用し、実質の組入比率を高位に保ちました。なお、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わず、高位の外貨エクスポージャーを維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

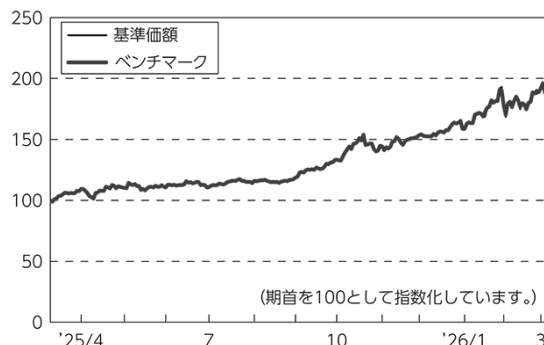
期間中における基準価額は、90.5%の値上がりとなり、ベンチマークである「金地金価格(円ベース)」の上昇率91.3%を概ね0.8%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

<マイナス要因>

- ・投資対象先における投資信託の信託報酬などの諸費用が影響したこと。
- ・海外カストディ・フィー、売買手数料、取引税などの諸費用が影響したこと。

基準価額とベンチマーク(指数化)の推移



○今後の運用方針

引き続き、原則として、ベンチマークである「金地金価格（円ベース）」に連動する投資成果をめざして、金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券に投資を行なう方針です。原則として、随時ポートフォリオの見直しを行ない、また、金先物取引を利用し、実質の組入比率を高位に保つ方針です。なお、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わず、高位の外貨エクスポージャーを維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年 3 月11日～2026年 3 月 9 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料	円 0	% 0.001	(a)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.001)	
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(0)	(0.001)	
(b) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(b)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	
(c) そ の 他 費 用	3	0.009	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(保 管 費 用)	(3)	(0.009)	
合 計	3	0.010	
期中の平均基準価額は、36,748円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2025年 3 月11日～2026年 3 月 9 日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国	アメリカ	千口	千アメリカドル	千口	千アメリカドル
	ISHARES GOLD TRUST-ETF	—	—	6,600	509,403
	ISHARES GOLD TRUST MICRO-ETF	15,150	607,135	—	—
	SPDR GOLD TRUST-ETF	21	5,832	332	91,909
	SPDR GOLD MINISHARES TRUST-ETF	1,570	94,902	—	—
小 計		16,741	707,870	6,932	601,313

(注) 金額は受け渡し代金。

先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外 国	商品先物取引	百万円 105,216	百万円 103,885	百万円 —	百万円 —

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2025年3月11日～2026年3月9日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2025年3月11日～2026年3月9日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2026年3月9日現在)

外国投資信託証券

銘 柄		期首(前期末)		当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額		比 率
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)		千口	千口	千アメリカドル	千円	%
ISHARES GOLD TRUST-ETF		10,625	4,025	390,344	61,951,575	13.1
ISHARES GOLD TRUST MICRO-ETF		5,950	21,100	1,083,696	171,993,392	36.4
SPDR GOLD TRUST-ETF		311	—	—	—	—
SPDR GOLD MINISHARES TRUST-ETF		13,000	14,570	1,485,702	235,795,907	49.9
合 計	口 数 ・ 金 額	29,886	39,695	2,959,743	469,740,875	
	銘 柄 数 < 比 率 >	4	3	—	<99.3%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別			当 期	未
			買 建 額	売 建 額
外国	商品先物取引	GOLD100	百万円	百万円
			3,848	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2026年3月9日現在)

項 目	当 期	未
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円	%
	469,740,875	99.2
コール・ローン等、その他	3,800,212	0.8
投資信託財産総額	473,541,087	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産（472,619,580千円）の投資信託財産総額（473,541,087千円）に対する比率は99.8%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=158.71円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年3月9日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	474,436,429,290
コール・ローン等	2,361,177,678
投資信託受益証券(評価額)	469,740,875,014
未収入金	902,914,350
未収利息	17,888
差入委託証拠金	1,431,444,360
(B) 負債	1,536,038,700
未払金	933,011,617
未払解約金	603,027,083
(C) 純資産総額(A－B)	472,900,390,590
元本	92,303,535,164
次期繰越損益金	380,596,855,426
(D) 受益権総口数	92,303,535,164口
1万口当たり基準価額(C／D)	51,233円

(注) 当ファンドの期首元本額は87,439,356,667円、期中追加設定元本額は41,903,239,230円、期中一部解約元本額は37,039,060,733円です。

(注) 2026年3月9日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・ゴールド・ファンド(為替ヘッジなし)	54,696,165,910円
・ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA専用)	18,254,026,244円
・ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	8,806,262,160円
・スマート・ファイブ(毎月決算型)	5,842,718,965円
・スマート・ファイブ(1年決算型)	1,285,013,719円
・FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(適格機関投資家専用)	1,071,361,273円
・ファイン・ブレンド(毎月分配型)	914,075,142円
・ファイン・ブレンド(資産成長型)	726,291,933円
・ゴールド・ファンド(適格機関投資家向け)	603,229,147円
・スマート・ファイブ(年3.6%目標分配プラス・奇数月決算型)	88,623,125円
・ファイン・ブレンド(奇数月分配型)	15,507,000円
・ファイン・ブレンド(適格機関投資家向け)	260,546円

(注) 1口当たり純資産額は5,1233円です。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○損益の状況 (2025年3月11日～2026年3月9日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	86,471,532
受取利息	59,864,843
その他収益金	26,606,689
(B) 有価証券売買損益	220,183,396,334
売買益	220,470,208,250
売買損	△ 286,811,916
(C) 先物取引等取引損益	1,284,486,849
取引益	2,500,304,008
取引損	△ 1,215,817,159
(D) 保管費用等	△ 31,362,419
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	221,522,992,296
(F) 前期繰越損益金	147,760,125,075
(G) 追加信託差損益金	115,845,647,023
(H) 解約差損益金	△104,531,908,968
(I) 計(E+F+G+H)	380,596,855,426
次期繰越損益金(I)	380,596,855,426

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

約款変更について

2025年3月11日から2026年3月9日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
 - ①委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。(第1条、第6条)
 - ②法定運用報告書の交付は行なわない旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、変更を行ないました。(第49条)
 - ③当社の社名変更に伴ない、電子公告を掲載する当社ホームページのURLを「www.nikkoam.com/」から「www.amova-am.com」に変更いたしました。(第51条)
- 当ファンドについて、資金流入額や投資対象の市場規模・流性等を勘案し、運用に支障がない水準として、信託金限度額を5,000億円から1兆円まで引き上げるべく、2026年2月9日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(第3条)